

中濃農林事務所の普及活動状況 令和4年6月25日現在

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■岐阜県担い手リーダー 青年農業士退任感謝状贈呈式

中濃農林事務所は6月9日、中濃農林事務所長室にて、令和3年度をもって退任された青年農業士3名への感謝状贈呈式を開催した。新型コロナウイルス感染症対策のため、今年度も県全体での贈呈式は行われず、担い手リーダーの地元での行事となった。

式には、退任した青年農業士全員に参加いただき、農林事務所長から感謝状と記念品を手渡し、11年間の青年農業士の任務を労った。退任された3名からは、担い手リーダーや地域農業への思い等を話していただき、不安な社会情勢の中での経営者としての重圧や仲間とのつながりの大切さを共有した。(地域支援係)



【贈呈式後の集合写真】

■研修生 新規就農者集合研修始まる

6月7日、JAめぐみの主催による「新規就農者集合研修」の第1回講義がJAめぐみの本店で開催され、中濃管内2名を含む16名の研修生、新規就農者が出席した。

本研修は、研修拠点等による実践研修を補完する知識や技術の習得を目的に開催されており、全15回の講義が計画されている。

開講にあたり、中濃農林事務所農業普及課長より、受講生への激励の挨拶のあと、「就農支援制度・就農計画」について、JAめぐみのと役割分担しながら講義を行った。

農業普及課では、研修生の知識・技術習得および就農準備について、関係機関と連携しながら推進していく。(地域支援係)



【研修会】

安心で身近な「ぎふの食」づくり

■水稲 生育調査

中濃農林事務所では、水稲にて品種や肥料の実証ほ等27ヶ所を生育調査地点として設定した。

6月15・16日、水稲生育調査が本格的に始まり、草丈、茎数、葉色の調査をJAめぐみと連携して実施した。今年も例年通りの時期に田植えが行われ、概ね順調に生育していることが確認できた。

農業普及課では、水稲の収量・品質を確保するため、実証ほの設置等を通じて栽培技術の確立を図っていく。(地域支援係)



【ハツシモ岐阜SL原種ほ場】

■水稲 「みのにしき」原原種生産（田植え）

水稲品種「みのにしき」は、関市の民間育種家が育成した極大粒の良食味品種で、昭和58年に品種登録され、昭和62年に岐阜県奨励品種に決定するなど、中濃管内を中心に作付けされている。

育成者にて原原種が生産されてきたが、高齢により継続が困難となり、今年産より地元の小瀬採種組合が生産を継承することとなった。

5月29日に、小瀬採種組合、JAめぐみの、農業普及課が参加して、原原種生産ほ場の田植え作業が行われ、まず田植機にて株当たり4本程度に植えた後、その株を1本に手直した。

農業普及課では、原原種生産が円滑に行われるように、生育調査やほ場巡回を通じて支援していく。(地域支援係)



【田植え作業】

■小麦 収穫期

中濃農林事務所管内では、小麦「さとのそら」が約 200ha 作付けされており、農業普及課では、JAめぐみの・JA全農岐阜と連携して実証ほ等 12ヶ所を生育調査してきた。

6月上旬に成熟期を迎え、5月25日に成熟期調査として、穂長・稈長・茎数を測定した。また、6月3日に刈刈りを行い、はざ掛け乾燥後に脱穀調製を行い、収量調査等を行った。

農業普及課では、小麦の収量・品質を確保するため、実証ほの設置等を通じて栽培技術の確立を図っていく。(地域支援係)



【成熟期の小麦ほ場】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■夏秋なす 出荷目揃会

夏秋なすの出荷が出揃い、6月17日に中濃夏秋茄子生産出荷組合の目揃会が関市の下有知集荷選果場にて開催された。

5名の新規組合員を含む18名の組合員および選果場選果作業員が出席し、選別基準について出荷物の現物を用いて目合わせを行うとともに、市場関係者等から情勢報告を受けた。

農業普及課からは、収穫期からの管理について栽培指導を行い、なすの草姿や病害虫の発生をよく観察し、管理が遅れないよう説明した。

農業普及課では、新規栽培者を重点に、ほ場巡回や硝酸イオン測定などを行い、生産者の収量・品質の向上を支援していく。(地域支援係)



【目揃会】

■さつまいも 苗の温湯消毒試験

中濃地域ではさつまいもの産地化に取り組んでいるが、全国的に問題となっている基腐病の発生が確認されており、対策が求められている。

文献によると、苗の温湯消毒(48℃のお湯で15分間浸漬)により基腐病の抑制効果があるとされている。そのため、苗生産農家及びJAめぐみに協力いただき、6月13日に、定植前のさつまいも苗の温湯消毒試験を実施した。温湯消毒後の苗は、茎が固くなり、しおれることもなく、品質に問題は見られなかった。消毒後直ちに、生産者圃場で植え付けが行われた。

農業普及課では、今後も植え付けた苗の生育や芋の収量等を調査し、温湯消毒の効果を確認していく。(地域支援係)



【苗の温湯消毒】

■ゆず 果実の状態を確認

関市上之保地域のゆずは、農薬を使用しない栽培を特徴としているが、品質の向上が課題となっている。

6月中旬、ゆずの開花から一か月が過ぎ、果実が2cm程度まで肥大してきた。農業普及課にて果実の状態を確認したところ、全体としてそれほど多くはないが、虫害と思われる傷果が確認された。しかし、今後の生理落果や摘果作業により、現在の傷果は除去され、収穫時の品質低下につながることは少ないと思われた。

農業普及課では、梅雨時で雨が続くことで果実での病害の発生が心配されるため、病害枝の除去などの耕種的防除の徹底を呼びかけている。(地域支援係)



【確認された傷果】

地域資源を活かした農村づくり

■かぼちゃ 栽培研修会で指導

今年から関市の農事組合法人上白金営農組合はかぼちゃの契約栽培（JAめぐみの、JA全農岐阜）の試作に取り組んでいる。かぼちゃを水田の高収益作物に位置付け、将来は面積拡大を目論んでいる。

今年は3人の組合員が300株程試作し、5月1日に播種し、5月27日には場に定植した。6月17日、JAめぐみのせき金竜支店にて将来の生産候補者15人程が出席し、「かぼちゃ栽培研修会」が開催された。農業普及課より栽培管理について指導し、今年の管理状況について情報交換を行った。その後、全員でほ場に移動し、摘芯、整枝、交配について現地指導と意見交換を行った。（地域支援係）



【かぼちゃ畑での指導】